
學 會

岡山醫學會第381回通常會

同會は豫期の如く本月17日午後4時より岡山醫科大學第1講堂に於て開會す緒方庶務主幹開會を宣し直ちに次の講演を開始す。

1. 鳥類の Müller 氏管の發生に關する研究補遺

(特に家鳩に於ける檢索)

解剖學教室胎生學研究室

望 月 章 次 君

家鳩胎兒に於ける Müller 氏管の發生に關しては嚙に富岡氏の研究業績あり。氏に據れば Müller 氏管は雌雄共に左右兩側に發生し、各頭部と尾部とよりなり、而して頭部原基は解卵日數4日、尾部原基は8日の胎兒に於て完成すと。然れども爾後の發育過程に於ては雌雄の間に著しき遲延あり、而も此點に就ては未だ論及せられざるを以て余は茲に氏の檢索を續行して次の結果を得たり。

1. 雄胎に於ては兩側 Müller 氏管は同時に解卵日數10日後に發育を中止し、既に11日には退化し始む。而も退化の現象は極めて速に進行するを以て右側に於ては14日、左側に在りては15日に Müller 氏管は其の痕跡を止めず。右側に於ては退化の現象は頭尾兩端に起り、反之左側に在りては先づ尾端部に始り、漸次尾方より頭方に進行す。

2. 雌胎に於ては右側 Müller 氏管は解卵日數11日に退化し始め、頭方より尾方に向ひて漸次短縮す。而して13日には既に胚隙の高さには認め

ず。15日には Bursa fabricii 起首部の高さにて初めて出現す。然れども11日以後右側 Müller 氏管に起る變化は單に退化の現象のみにあらずして其の下部は寧ろ發育進化するを以て孵化1日の胎兒に於ても Müller 氏管尾部著明に残存す。

3. 雌胎に於ては左側 Müller 氏管は解卵日數10日迄は全長に亘りて其の太さ同一にして、11日に至りて初めて一部に肥厚を來たす。13日に於ては Müller 氏管下部特に著しく肥大し、17日に於ては Müller 氏管下部の内面は皺襞に富み外面に筋層發生し茲に固有の卵管を形成するに至る。但し Müller 氏管は孵化1日の胎兒に於ても未だ尿生殖竇に開口せずして盲端に終る。

2. 腸壙積症

特に慢性腸壙積症に就て

岡山醫科大學津田外科教室

大 林 義 彦 君

最近10年間に當津田外科教室に於て經驗したる腸壙積症は35例にして、腸閉塞症の約24%を占め、其の内慢性腸壙積症は15例即ち42.8%に及べり。之を年齢的に觀察するに、1歳以下の乳兒腸壙積症6例中2例(33.3%)、2歳より15歳迄の成育兒腸壙積症8例中3例(37.5%)、成人腸壙積症21例中10例(47.6%)は慢性腸壙積症に屬し、即ち15例中15歳以下小兒5例(33.3%)、成人10例(66.7%)にして、成人に多く、又慢性腸壙積症に關し、男女の比を求むるに、小兒に於ては1.5:1にして男性に多きも、成人に於ては寧ろ女性に頻發

し、全體として男性7例(46.7%)女性8例(53.3%)にして、男女略ぼ相等し、其の發生部位は小腸2例(13.3%)、結腸1例(6.7%)、廻盲部12例(80.0%)にして、老若を通じて廻盲部に好發す。

臨牀症狀として頻發するものを舉ぐれば、第1に腹痛にして、患兒幼若なるため、所訴不明なる1例を除けば100%を占め、次で嘔吐14例(93.3%)、疊積腫瘍13例(86.7%)、血便10例(66.7%)に及び、腸疊積症の4重大症狀をなす。

更に治療方法としては観血的方法によるは論を

待たず、可及的早期に開腹し、Hatchiwson氏手法により解離を試むべきにして、斯くして成功せし自家症例6例に於ては100%の治癒率を得たるに反し、止むを得ず吻合術又は糞瘻造設術に止めしものにては豫後遙に劣り、合算して73.3%に於て救ひ得たり。

右終りて午後5時5分閉會す。當日の來會者は34名なり。

◎ 岡山醫學會通常會休會

本年7、8兩月の本會通常會は暑中に付例年の通り休會す